

2 (5) 実践の考察

ア 考察の視点

本研究委員会では、研究委員の所属校で児童の実態を継続的に把握し、研究委員自身が日々の授業を振り返りながら、授業の質的改善に取り組んできました。研究委員会がスタートした6月から約7か月にわたる質的改善の営みの結果、今回の学習指導要領で整理された三つの資質・能力「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」が身に付いたのかどうかを検証しました。一単元や一単位時間における検証結果については、2 (3) 授業の質的改善のプロセスのA校、B校、C校の実践をご覧ください。本項では、質的改善を図る前（6月）の段階と第6回研究委員会終了時（11月）の段階とを比較しました。検証の材料として参考にしたのは、佐賀県小・中学校学習状況調査【12月調査】の過去の問題です。問題の趣旨や難易度が似通っている問題を取り上げ、実施しました。

なお、検証においては、新しい評価の3つの観点に沿って分析・考察します。ただし、「知識・技能」は、現行の評価の観点「社会的事象についての知識・理解」と「観察・資料活用の技能」として、「主体的に学習に取り組む態度」は、現行の評価の観点「社会的事象への関心・意欲・態度」とほぼ同じと捉えて、評価・分析することにしました（表1）。

表1 新学習指導要領と現行の学習指導要領の評価の観点

新学習指導要領	現行の学習指導要領
知識・技能	社会的事象についての知識・理解
	観察・資料活用の技能
思考・判断・表現	社会的な思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度	社会的事象への関心・意欲・態度

イ 分析

(7) A校第4学年

a 調査問題の結果から

「知識・技能」「思考・判断・表現」については、佐賀県小・中学校学習状況調査を基にした調査問題の結果から分析しました。表2はその結果を示しています。

表2 佐賀県小・中学校学習状況調査【12月調査】を基にした調査問題の結果

評価の観点	出題の趣旨		正答率 (%)	
	6月	11月	6月 n=23	11月 n=25
知識	警察の施設の一つである交番を理解している	火事が起きたときに、連絡する電話番号を理解している	70%	76%
	事故や事件をなくすために大切なことを理解している	火事が起きたときに、通信指令室から警察署に連絡する理由について理解している	65%	60%
技能	グラフから、交通事故発生件数の変化を読み取ることができる	グラフから、水の使用量の変化について読み取ることができる	70%	92%
	資料から、交通事故発生の原因を読み取ることができる	グラフから、水の使われ方について読み取ることができる	83%	76%
	警察官の仕事に関する疑問を適切に調べることができる	ごみ処理に関する疑問について、適切に調べることができる	57%	96%
思考・判断・表現	通信指令室から消防署に連絡する理由について考えることができる	資料を基に、学校における消火器設置の目的について考えることができる	78%	76%
	資料を基に、地域の事故防止や防犯に努めている人々の取り組みについて考えることができる	学校でできる節水の方法を考えることができる	35%	80%

b 意識調査の結果から

「主体的に学習に取り組む態度」については、佐賀県小・中学校学習状況調査（意識調査）を基にした意識調査の結果から分析しました。表 3 はその結果を示しています。

表 3 佐賀県小・中学校学習状況調査【4月調査】を基にした意識調査の結果

質問	選択肢	割合 (%)	
		6月 n=23	11月 n=25
(1) 社会の勉強は好きだ。	1 当てはまる	26%	24%
	2 どちらかといえば、当てはまる	52%	76%
	3 どちらかといえば、当てはまらない	17%	0%
	4 当てはまらない	5%	0%
(2) 社会の授業の内容はよく分かる。	1 当てはまる	26%	44%
	2 どちらかといえば、当てはまる	48%	56%
	3 どちらかといえば、当てはまらない	26%	0%
	4 当てはまらない	0%	0%
(3) 社会の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ。	1 当てはまる	48%	48%
	2 どちらかといえば、当てはまる	30%	48%
	3 どちらかといえば、当てはまらない	17%	4%
	4 当てはまらない	5%	0%
(4) 社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習している。	1 当てはまる	56%	48%
	2 どちらかといえば、当てはまる	22%	52%
	3 どちらかといえば、当てはまらない	22%	0%
	4 当てはまらない	0%	0%
(5) 社会の授業で、自分で調べて分かったことや考えたことをもとに話し合っている。	1 当てはまる	52%	32%
	2 どちらかといえば、当てはまる	30%	48%
	3 どちらかといえば、当てはまらない	13%	20%
	4 当てはまらない	5%	0%
(6) 社会の授業で、調べて分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワークシートなどに書いている。	1 当てはまる	48%	72%
	2 どちらかといえば、当てはまる	43%	24%
	3 どちらかといえば、当てはまらない	9%	0%
	4 当てはまらない	0%	4%

c 調査問題及び意識調査の結果を基にした考察

表 2 の網掛け部は、6月と11月を比較し、11月に正答率が上回った設問及びその結果を表しています。下回った問題も数問ありますが、評価の観点「知識」「技能」「思考・判断・表現」の全てにおいて上回っている問題があったことから、授業の質的改善の成果の一端が伺えます。特に、「技能」については、他の観点に比べ大きな伸びが見られました。A校については、「学習問題を設定する場面」を中心とした質的改善に取り組んできましたが、単元のはじめに児童の問題意識を高め、学習問題を解決するためには何をどのようにして調べていけばよいのか、見通しをもたせたことが、資料から情報を読み取ったり、適切な方法で調べたりすることにつながっていると考えます。

表 3 の網掛け部は、6月と11月を比較し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した児童が増加した設問及びその結果を表しています。6問中5問において、肯定的に回答した児童が増加しました。特に、質問「(1)社会の勉強は好きだ。」「(2)社会の授業の内容はよく分かる。」「(4)社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習している。」については、否定的な回答をした児童はいませんでした。身近な社会的事象を提示し、児童の気付きや疑問を基に学習問題を設定し、単元を通して追究活動を行わせる実践を継続的に行ったことで、児童は社会的事象に興味をもち、自分が調べたり考えたりすることを意識しながら学習を進めることができたのではないかと考えます。一方で、質問「(5)社会の授業で、自分で調べて分かったことや考えたことをもとに話し合っている。」については、肯定的に回答した児童が減少

しました。「課題把握の場面」で、気付きや疑問を伝え合うペアやグループの話し合いを積極的に取り入れましたが、「課題追究の場面」においても、調べたことや考えたことを伝え合う場面をこれまで以上に積極的に取り入れていく必要があると考えます。

(イ) B校第5学年

a 調査問題の結果から

「知識・技能」「思考・判断・表現」については、佐賀県小・中学校学習状況調査を基にした調査問題の結果から分析しました。表4はその結果を示しています。

表4 佐賀県小・中学校学習状況調査【12月調査】を基にした調査問題の結果

評価の観点	出題の趣旨		正答率 (%)	
	6月	11月	6月 n=27	11月 n=25
知識	日本の南端の島が沖ノ島であることを理解している	工業地帯や工業地域が集まっている所が太平洋ベルトであることを理解している	85%	72%
技能	日本の位置を地図から読み取ることができる	資料から、大工場と中小工場の工場数の違いを読み取ることができる	93%	92%
	日本の位置を地図から読み取ることができる	資料から、大工場と中小工場の生産額の違いを読み取ることができる	96%	100%
思考・判断・表現	資料を基に、山地に挟まれた高松市の降水量が少ない理由について説明することができる	資料を基に、運搬船で輸送する理由について説明することができる	7%	28%

b 意識調査の結果から

「主体的に学習に取り組む態度」については、佐賀県小・中学校学習状況調査（意識調査）を基にした意識調査の結果から分析しました。表5はその結果を示しています。

表5 佐賀県小・中学校学習状況調査【4月調査】を基にした意識調査の結果

質問	選択肢	割合 (%)	
		6月 n=27	11月 n=25
(1) 社会の勉強は好きだ。	1 当てはまる	30%	24%
	2 どちらかといえば、当てはまる	25%	44%
	3 どちらかといえば、当てはまらない	15%	8%
	4 当てはまらない	30%	24%
(2) 社会の授業の内容はよく分かる。	1 当てはまる	33%	44%
	2 どちらかといえば、当てはまる	30%	32%
	3 どちらかといえば、当てはまらない	12%	12%
	4 当てはまらない	25%	12%
(3) 社会の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ。	1 当てはまる	55%	44%
	2 どちらかといえば、当てはまる	19%	28%
	3 どちらかといえば、当てはまらない	4%	12%
	4 当てはまらない	22%	16%
(4) 社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習している。	1 当てはまる	37%	48%
	2 どちらかといえば、当てはまる	26%	28%
	3 どちらかといえば、当てはまらない	11%	8%
	4 当てはまらない	26%	16%
(5) 社会の授業で、自分で調べて分かったことや考えたことをもとに話し合っている。	1 当てはまる	26%	24%
	2 どちらかといえば、当てはまる	33%	44%
	3 どちらかといえば、当てはまらない	19%	12%
	4 当てはまらない	22%	20%
(6) 社会の授業で、調べて分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワー	1 当てはまる	47%	60%
	2 どちらかといえば、当てはまる	19%	16%

クシートなどに書いている。	3 どちらかといえば、当てはまらない	15%	4%
	4 当てはまらない	19%	20%

c 調査問題及び意識調査の結果を基にした考察

表 4 の網掛け部は、6 月と 11 月を比較し、11 月に正答率が上回った設問及びその結果を表しています。下回った問題がありますが、評価の観点「技能」「思考・判断・表現」には上回っている問題があったことから、授業の質的改善の成果の一端が伺えます。特に、「思考力・判断力・表現力」については、他の観点に比べ大きな伸びが見られました。B 校では、「話し合う学習活動」を中心とした質的改善に取り組んできましたが、調べて分かったことを基に考えを表現する経験が、知識を活用して課題を解決する力につながっていると考えます。一方で、「知識」は下回っていました。話し合う学習活動における児童の発言の中には、知識が十分でないまま、考えを述べている様子も見られました（2(4)実践事例（B 校第 5 学年）参照）。今後も、話し合う学習活動中において、知識が不十分なまま発言している児童には適切な働き掛けをするとともに、D③の手立て「根拠となる資料を確認する」を継続して取り入れていくことが必要だと考えます。

表 5 の網掛け部は、6 月と 11 月を比較し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した児童が増加した設問を表しています。6 問中 5 問において、肯定的に回答した児童が増加しました。特に、質問「(5)社会の授業で、自分で調べて分かったことや考えたことをもとに話し合っている。」については、わずかな伸びではありますが、成果が見られます。「話し合う学習活動」を単元の中で計画的に位置付け、調べた事実を基に自分の考えを表現させる手立てを継続して取り入れた結果、児童は「話し合う学習活動」に主体的に取り組むことができるようになってきていると考えます。一方で、質問「(3)社会の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ。」については、わずかではありますが、肯定的に回答した児童が減少しました。「話し合う学習活動」を積極的に取り入れてはきたものの、話し合う論題が児童にとって魅力的なものだったのか、よりよい社会の在り方について考える動機になるものだったのか、検討する必要があると考えます。

(ウ) C 校第 6 学年

a 調査問題の結果から

「知識・技能」「思考・判断・表現」については、佐賀県小・中学校学習状況調査を基にした調査問題の結果から分析しました。表 6 はその結果を示しています。

表 6 佐賀県小・中学校学習状況調査【12 月調査】を基にした調査問題の結果

評価の 観点	出題の趣旨		正答率 (%)	
	6 月	11 月	6 月 n=36	11 月 n=36
知識	米作りに適した土地や水などをめぐって、むら同士の争いがあったことを理解している	踏み絵を行った目的について理解している	69%	61%
技能	資料から、縄文土器の特徴を読み取ることができる	資料から、弥生土器の特徴を読み取ることができる	83%	50%
思考・ 判断・ 表現	資料を基に、縄文時代から弥生時代にかけて生活が変化したことを説明することができる	資料を基に、江戸幕府が行った大名の配置の工夫を説明することができる	61%	17%

b 意識調査の結果から

「主体的に学習に取り組む態度」については、佐賀県小・中学校学習状況調査（意識調査）を基にした意識調査の結果から分析しました。表 7 はその結果を示しています。

表 7 佐賀県小・中学校学習状況調査【4月調査】を基にした意識調査の結果

質問	選択肢	割合 (%)	
		6月 n=36	11月 n=36
(1) 社会の勉強は好きだ。	1 当てはまる	14%	14%
	2 どちらかといえば、当てはまる	33%	19%
	3 どちらかといえば、当てはまらない	22%	39%
	4 当てはまらない	31%	28%
(2) 社会の授業の内容はよく分かる。	1 当てはまる	3%	22%
	2 どちらかといえば、当てはまる	25%	56%
	3 どちらかといえば、当てはまらない	39%	22%
	4 当てはまらない	33%	0%
(3) 社会の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ。	1 当てはまる	0%	22%
	2 どちらかといえば、当てはまる	11%	50%
	3 どちらかといえば、当てはまらない	53%	25%
	4 当てはまらない	36%	3%
(4) 社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習している。	1 当てはまる	14%	36%
	2 どちらかといえば、当てはまる	3%	47%
	3 どちらかといえば、当てはまらない	39%	17%
	4 当てはまらない	44%	0%
(5) 社会の授業で、自分で調べて分かったことや考えたことをもとに話し合っている。	1 当てはまる	0%	39%
	2 どちらかといえば、当てはまる	11%	39%
	3 どちらかといえば、当てはまらない	44%	22%
	4 当てはまらない	45%	0%
(6) 社会の授業で、調べて分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワークシートなどに書いている。	1 当てはまる	3%	64%
	2 どちらかといえば、当てはまる	3%	19%
	3 どちらかといえば、当てはまらない	30%	14%
	4 当てはまらない	64%	3%

c 調査問題及び意識調査の結果を基にした考察

表 6 を見ると、11 月は 6 月に比べ、正答率が上回った問題はありませんでした。特に、「思考・判断・表現」については、他の観点に比べ大きく減少していました。C 校では、「調べる学習活動」を中心とした質的改善に取り組んだことで、資料から問題解決に必要な資料を選択したり、情報を読み取ったりする力は付いてきていました（2 (3) ウ C 校（第 6 学年の実践）参照）。また、調べた事実を基に、考えられることができるように、D②の手立て「調べた事実と考えを明確に分けさせる」などを継続的に取り入れてきましたが、調査問題の結果からは見取ることができませんでした。しかし、12 月単元「新しい日本、平和な日本へ」では、全体の約 98% が調べたことから自分の考えを記述することができており（2 (3) ウ C 校（第 6 学年の実践）参照）、日々の継続的な取り組みによって力が身に付きつつあることがうかがえます。

表 7 の網掛け部は、6 月と 11 月を比較し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した児童が増加した設問を表しています。6 問中 5 問において、肯定的に回答した児童が大幅に増加しました。C 校では、「調べる学習活動」を中心とした質的改善に取り組んできました。質問「(4) 社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習している。」「(6) 社会の授業で、調べて分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワークシートなどに書いている。」の肯定的回答が増加していることから、「調べる学習活動」において取り入れた B①の手立て「学習問題（や本時のめあて）を解決するために何を調べるとよいかを考えさせる」や C③の手

立て「学習問題と学習計画を教室内に掲示し、常に振り返らせる」などの成果が出ていると判断できます。一方で、質問「(1) 社会の勉強は好きだ。」については、わずかではありますが、肯定的に回答した児童が減少しました。C校においては、児童が何を調べるのかはっきり分かって「調べる学習活動」に取り組むことができるように、C⑥の手立て「資料（写真、教科書等の文章等）を一つずつ確認し、どのようなことが分かる資料なのか考えさせる」を継続的に取り入れてきました。資料を読み取る力は身に付いている反面、教師の指示が多くなっている課題があることから、主体的な学びの視点において手立ての工夫・検討の余地があると考えます。